

平成28年度射水市廃棄物減量等推進審議会の概要

1 開催日時、場所

平成28年12月27日（木）午後3時
射水市役所2階 202会議室

2 出席者

能登 委員（前富山県立大学准教授）
三屋 委員（射水市環境衛生協議会長）
浦田 委員（富山県環境科学センター所長）
※代理出席：藤崎富山県環境科学センター次長
大門 委員（射水市地域振興会連合会常任理事）
沖 委員（射水市婦人会長）
竹苗 委員（射水市食生活改善推進協議会長）
砂原 委員（射水商工会議所事務局長）
金井 委員（射水市一廃収運業者協議会長）
福井 委員（射水リサイクル協会会長）

3 欠席者

徳永 委員（射水市商工会女性部長）

4 議題

- (1) 射水市のごみの推移について
- (2) 平成27年度ごみ減量化等の主な施策と現状
- (3) 平成27年度廃棄物減量等推進審議会以降の取組状況について
- (4) 第2次射水市一般廃棄物処理基本計画（案）について

5 質疑応答及び意見の概要

《委員》

平成28年度から生ごみを自家処理する機材購入に係る補助金が、従来のコンポスト分は廃止され、電気式生ごみ処理機に限定されたと聞いているが、苦情等はあったか。

《事務局》

4月に広報等で周知させていただき、現在のところ苦情等はない。

《委員》

ごみ収集カレンダーを平成29年度から変えると聞いているが、どのようになるのか。

《事務局》

ごみ収集カレンダーの大きさをA2版の一枚もので3年間利用できるものを考えている。

《委員》

ごみ収集カレンダーに家庭系ごみ排出量の減少についてグラフで掲載してはどうか。

《事務局》

市民に何らかの形でお知らせできるよう検討する。

《委員》

スマートフォンのアプリでの「ごみ収集カレンダー」掲載についての検討状況は。

《事務局》

「ごみ収集カレンダー」のスマートフォンアプリでの掲載を検討したが、費用が多額であったため、見送っている。

《委員》

食品ロス量の調査を行ったとあるが、市で実態量調査を行ったのか。

《事務局》

本市で調査する同時期に富山県で調査を行うこととなったので、県で本市の分を含めた調査を行った。

《委員》

30・10運動の効果はどれくらいあるのか。

※「30・10運動」

会食や宴会の席では、最初の30分間と最後の10分間は全員が自席を立たずに食事をし、食べ残しを極力少なくすることを目的とした運動のこと。

《事務局》

食品ロス削減量の数値は把握していないが、宴会等での食べ残しが減ったと聞いている。

《委員》

来年度に食品ロス削減の啓発活動を行う予定はあるか。

《事務局》

ポケットティッシュやカレンダー、コースター等を配布し、啓発活動を行う予定である。

《委員》

食品ロス削減は重要なことだが、残さないことで塩分の取りすぎになることもあると思う。山形県のラーメン店では、トレイに「麺を食べてスープは残してください。」と書いてあるそうだ。このように書いてあれば、減塩に配慮し安心して残すことができるので、食品ロス削減には健康への配慮も考えた工夫が必要かと思う。

なお、食生活改善推進協議会ではエコクッキングの啓発を行っている。主なものとして「材料を使い切り生ごみは出さない。」「野菜の皮を剥いたら、きんぴらや即席漬けにする。」「だしを取った昆布や鰹節を佃煮やふりかけにする。」と呼びかけている。

《事務局》

食品ロス削減に向けて、野菜の皮などを使った料理レシピを情報発信できるよう進めていきたい。

《委員》

来年度、富山県からレシピ集が情報発信される予定なのでそちらと連携して欲しい。

《委員》

年賀ハガキリサイクルの回収量が減っていると聞いているが、何か対策はあるのか。

《事務局》

保育園等で年賀ハガキリサイクルの啓発イベントを行い、園児に再生ノート等を配布し回収への理解を周知している。

第2次射水市一搬廃棄物処理基本計画（案）について

《会長》

環境教育の推進について、副読本「わたしたちの射水」、「ふるさと射水」はどのようなものなのか。

《事務局》

小中学生を対象とした環境関係の冊子である。

《会長》

こどもエコクラブ活動とはどのような事業か。

《事務局》

県内では、とやま環境財団が行っている事業で、身近な場所で自分ができる環境活動に自由に取り組むものである。

《会長》

エコバスツアーは年に何回行っているのか。

《事務局》

年に1回行っている。

《会長》

環境に関する講演会などはどのような時に行う予定か。

《事務局》

いみずくらしと環境フェア等で開催を予定している。

《委員》

事業系ごみ量が増加しており、減量目標を立てているが、景気の影響でごみ量も変わらと思う。各事業者はコスト削減の観点から、ごみ排出量を抑えるよう努力しており、リサイクルの推進にも努めている。目標を厳しくしすぎると、各事業者の減量化のモチベーションが下がるので、留意して欲しい。

《委員》

食品ロスについて、小学生などは好き嫌いではなく、アレルギーの理由で廃棄することもある。何でも食品廃棄はいけな風潮を作ることのないようにして欲しい。

《委員》

容器包装の再資源化率が低いので今後、市ではどのような対策を考えているのか。

《事務局》

市では、4R活動の推進で「過剰包装したものを買わない」「もらわない」よう周知啓発していく。

《委員》

資源集団回収の推進に向けた啓発支援で、未登録の自治会に対する登録呼びかけとあるが、すべての自治会が登録されているのではないか。

《事務局》

資源集団回収団体として環境課に登録されていない自治会もある。

《会長》

自治会で登録されていない地区では、婦人会など他の団体で回収されているのか。

《事務局》

そのような地区もあり、主にPTAで資源集団回収が行われている。

《委員》

不燃物のゴミで集積場に町内以外の人がゴミを出して行き、たいへん困る。

《委員》

わたしの地区では、缶やビン以外のゴミはゴミ袋にすべて自分の名前を書いて出すようになってから、町内以外の人ゴミ出しが少なくなった。

《会長》

市ではどのような対策をしているのか。

《事務局》

ゴミ集積場で収集されずに置いて行かれるゴミは、収集された後に出されたゴミか回収できない理由のゴミである。後者のゴミは理由を明示したシールをゴミ袋等に張られる。ゴミを出された方に正しい出し方を理解してもらうため、1週間ほど集積場に置いてもらうよう地元をお願いしている。それでも残った場合は、環境課で回収をしている。

また、集積場への不法投棄がひどい場合、地元の要望があれば監視カメラを設置している。監視カメラは各地区の環境衛生協議会の委員の方にもお知らせしているので空き地等の不法投棄がある場合にも設置している。

《会長》

計画の施策効果を検証し、どのように評価するかを考えていくべきだと思う。

《事務局》

本審議会で計画目標に対する実績を報告し、施策の評価を行っていく。

《会長》

災害廃棄物への対応で今後の予定を教えて欲しい。

《事務局》

今年度から来年度に向けて災害廃棄物処理計画を策定する予定である。